

野田山・長坂コース

南丘陵・野田山「古刹こさつの深緑と新しい花緑の誕生」

標高175.4mの野田山丘陵に広がる野田山墓地。加賀藩前田家歴代の墓所をはじめ、室生犀星の墓などが点在し、今は市民墓地として、安らぎの空間を形成しています。閑静な大乘寺の境内では、木霊こだまの気配が感じられます。

野田町 → 長坂用水 → 大乘寺 → 大乘寺丘陵公園 →

野田山墓地 → 野田山山頂部 → 前田家墓所 → 野田口



●長坂用水

野田町交差点より野田山方向へ進みます。しばらくすると道と水の流れが交差します。これが長坂用水で、内川の竹林を縫うように緩やかに流れ来て、野田、長坂、泉野などに、里山からの清々しい水を提供しています。用水に沿って進んでいくと「大乘禅寺」と力強く刻まれた立派な門柱がみえてきます。

●大乘寺

禅宗の名刹「大乘寺」。モミ、スギ、アカマツ、サザンカなど、高低木約12,000本からなる大樹林に覆われ、山門、仏殿、法堂など、静けさの中に歴史を刻み続けている主要建物が威容を誇っています。参道左右に^{きつりつ}屹立するモミ、スギの雄姿や墓地周辺のアカマツの林。緑に苔むした境内では、野鳥のさえずりがあちらこちらから響いてきます。



(大乘寺)

大乘寺は、森閑とした古刹の風格と、年輪を重ねた自然のたくましさを、今に伝えています。

●大乘寺丘陵公園

長年、市民に親しまれてきた長坂町、山科町の丘陵地の緑を復元し、永く未来に継承するため整備された金沢市を代表する総合公園です。標高差83mの丘陵地に広がり、園内からは金沢市街地と日本海までのパノラマを一望することができます。標



(大乘寺丘陵公園)

高の違いによる眺望の変化も見どころのひとつです。園内には、一年を通じて散策を楽しめるよう、サクラ、ウメ、ツツジ、アジサイ、モミジ、ハギ、ツバキなど四季折々の花木が植えられています。特に、約13,000株あるつつじ園

は、満開の時期を迎えると壮観です。また、約900mにおよぶ桜並木の主園路がふもとから頂上へと続き、春には公園を彩ります。公園中腹の丘陵斜面には約13,000㎡の広さを誇る開放的な芝生の丘があります。ゆるやかな丘にゆったりと腰をおろして、園内の四季折々の景観に包まれながら、花木を楽しみ、季節の移ろいを感じることができます。

●野田山墓地

市街地から南西部に位置する野田山。広大な墓地公園として、前田家墓所をはじめ金沢にゆかりある著名人や市民の墓が数多く点在しています。一帯はおもに、アカマツ林で墓地全体を覆っています。園内は、そのアカマツの樹陰が日差しを弱めるためか、湿り気を好む下草が多くみられます。



(前田家墓所)

お盆や彼岸の頃を除けば、訪れる人も少なく普段は静まりかえっています。

三小牛町に続く勾配ある車道沿いを進み、平坦となった頂上部あたりから左に折れ、墓地敷地内の舗装された参道を下ります。しばらく下ると、前田家墓所に続く参道に辿り着きます。

野田山が前田家の墓園となったのは、初代藩主・前田利家の兄利久をここに葬ったのが墓地の始まりといわれています。利家もこの地に眠っていて、墓所前に立ち、麓を望めば寺町台のまちなみが、さらに遥かに望めば、小立野台地が回廊のように、まちなみに緑の帯を巻いています。

●野田口へ

なだらかな参道に沿って下ると、墓地管理事務所前に出ます。網目状に幾重にも延びる参道では、シダ類がよくみられ、墓石には、種々のコケ類も観察できます。管理事務所前を右に進み、覚尊院の六地藏に出会い、そして再び長坂用水の水音が聞こえてきたら、そこが野田口。

通りへと続く道の両側には、切り花や線香を置く家々も多く、ほかとは趣を異にした山麓の風情が感じられます。利家墓守の寺として建立された桃雲寺があるのもこの境界です。